

巻頭特集 子どもと地域の未来へ向けて

第18回 / SUN-IN未来ウォーク

老若男女3000人が国内外から集う「SUN-IN未来ウォーク」。

子どもたちと地域の将来のために
地元有志の手づくりで始まった大会は18回目を数える。
創始者たちの思いと、ウォーキングの魅力を紹介する。



子どもと地域の未来のために
ウォーキングで未来をつくり

毎年6月、週末2日間にかけて「SUN-IN未来ウォーク」が開催される。鳥取県におけるウォーキングムーブメントの火付け役となった大会は、今年18回目を迎える。

第1回は2001年4月だった。きっかけは、伊能忠敬の足

跡をたどる「伊能ウォーク」(朝日新聞社主催)。一行が鳥取県を通過した際にスタッフとして携わった地元有志が、中部の小学校PTA会長らとともに独自のウォーキング大会を企画した。実行委員長の遠藤公章さんは「子どもたちに、さまざまな地域の宝を伝えられると考えました」と思いを語る。

当時はウォーキングへの認知

度が低く、協力を求めてもしばしば断られた。「わざわざお金を払って歩くなんて」と首をかしげる人もいたそうだ。そんな声に負けず、粘り強く呼びかけて開催した「第1回くらし未来ウォーク」は、約1000人が参加。

この経験をもつて、3年後運営母体「NPO法人未来」を設立。理事長に就任した創始メンバーの岸田寛昭さんは「私たちの活動は、子どもと地域が原点。子どもは未来。だから大会にも法人名にも『未来』とつけました」と信念を話す。歩くのは健康、教育、観光、交流、環境などの要素を持つ。これらをウォーキングの「5K」に掲げ、未来づくりに取り組んできた。

大会は翌年「日本海未来ウォーク」と名を変え、2011年「SUN-IN未来ウォーク」に。2012年、日本マーチングリーグに加盟して国内主要18大会の1つとなり、県外からの参加者が急増した。連泊で滞在する参加者も多く、経済活性化に一役買っている。

地域の力を結集！
育まれる郷土意識

大会コースは2日間それぞれ3kmから35kmまで5コースを用意。中部1市4町すべて、いずれかのルートに入っている。「名

所など見てほしい場所を選んでコースを考えています。まずは安全第一。ルートを毎年少しずつ変えて、飽きないように工夫しています」と遠藤さん。悩みどころはトイレの場所だと話しながら、鳴り石の浜からスタートするのは今年が初めてと続けた。三徳山の寺院で座禅や写経を体験する「心のウォーキング」も近年登場。今年は6月1日(金)に実施する。

ウォーキングイベントの企画・準備を行う実行委員会は、NPOを核に地元住民や行政職員など総勢約80人、15部会から成る。誰もが理念を共有し、手弁当で参画している。

大会を支えるのは、多くのボランティアと協力協賛者だ。ボランティアは地域住民をはじめ中学・高校生ら約6000人が集結。参加賞の準備や当日の受付、駐車場整備、出発式の司会・進行、コース上での案内や給水など、ほぼすべての実務を担う。遠藤さんは「ボランティアがこんなに多くの業務を担ってくれる大会はなかなかない。ボランティアあつてこそ『未来ウォーク』です」と感謝の言葉を口にしました。岸田さんは「将来、地域に貢献する人材を育成するには、子どものときから地域の事業に関わってもらおうのが一番」とこころ。その期待通り10年経過後に、再度ボランティアに志願する人が少



台湾や韓国から参加する人もいた



住民や地元企業が沿道でおもてなし



チェックポイントで参加者にスタンプを押すボランティアスタッフ



1日目の夕方、交流会を開催。世代も国境も越えてウォーキングで友好を育む



副大会長・NPO法人「未来」理事長 岸田寛昭さん



実行委員長 遠藤公章さん

なくないそうだ。ボランティア参加時に他校の生徒と育んだ交流が続いている人もいる。

沿道では、地域団体やJA、地元企業ももてなす。参加者は東郷湖のしじみ汁や甘いメロン、そうめん、銘菓などで心身にエネルギーを補給。住民の「がんばって!」というかけ声も励みになる。資金的な協力も徐々に増え、経費の大部分を協賛と参加費でまかなっている。「他の地域では行政主催が一般的。これほどの規模の大会を民間で開催しているのはここくらいでしょう」と遠藤さん。それが叶うのは、地域の厚い支援があつてこそ。それだけ多くの人が、「SUN-IN未来ウォーク」に中部の未来への思いを寄せている。

歩いてまちを再発見!
当日参加も募集中!

第1回から18年。その間、若い世代や女性の愛好家が増え、鳥取県が「ウォーキング立県」を宣言し、ウォーキングは着々と県民に広がっている。2010年に1日あたりの歩数が全国最下位だった鳥取県男性は2016年に2つランクを上げ、女性も歩数が増えた(※)。

「歩く」と、草花や木々、季節のうつろいなど車とは違う景色が広がります。日ごろ気づかなかったまちの再発見にもつながります」と、遠藤さんはウォーキングの魅力語る。親子の愛好家も増え、大会では子どもと手を繋いで歩く家族の姿も多く見ら

れる。「歩くのいいことばかり。健康増進や親子の絆を深める機会にもなります。ぜひ習慣にしてほしい」と願う。岸田さんは「未来のためにどんな種まきができるかを考えながらやってきた。今後もその意識を持って続けたい」と話す。

18年前の種が芽を出し、豊かに育っている鳥取のウォーキング。大会は当日参加が可能で、ボランティアの申込みも直前まで受け付けている。あなたも未来のために、1歩を踏み出してはどうだろう。

※厚生労働省「国民健康・栄養調査」



中部の名所を巡る。写真は左から、国鉄倉吉線廃線跡、倉吉市内の重要伝統的建造物群保存地区、東郷湖畔

第18回 SUN-IN未来ウォーク

6月2日(土)・3日(日) ※雨天決行 当日参加OK!

主会場:鳥取県倉吉パークスクエアふれあい広場
参加費(当日申込):一般2000円、大学・短大・専門学校生500円、高校生以下無料

受付:7:00~
2日のコース:八橋往来・名探偵コナンコース(35km)、伊能忠敬・湯梨浜コース(20km)、川と緑の彫刻コース(10km)、赤瓦白壁コース(5km)、キッズコース(歩育・3km)

3日のコース:里見八犬伝・国鉄廃線跡コース(35km)、三朝温泉湯けむりコース(20km)、遙かなまち倉吉コース(10km)、赤瓦・ひなビタコース(5km)、キッズコース(歩育・3km)

※キッズコースは保護者同伴、ベビーカー不可、弁当必携

◇問い合わせ
未来ウォーク実行委員会
倉吉市東仲町2571
TEL 090-9730-1089 (専用携帯)
http://npo-mirai.net/public

